



合併後5年間のまちづくり

【商工観光部】

平成22年2月



主な取り組み



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○主な取り組み

●コミュニティバスの運行について

交通空白地域の解消と，市民生活の利便性向上を図るために，新たにコミュニティバスを導入した。

- 平成18年11月8日 運行開始
南部循環バス（南部循環，高江・土川，串木野新港線）
- 平成19年12月1日 運行開始
北部循環バス（湯田・西方，城上・吉川線）



□利用実績 (人)			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度
南部循環線	23,429	64,555	67,653
北部循環線	—	22,295	71,053



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 主な取り組み

● 薩摩川内市地域公共交通活性化協議会を設置

平成20年3月、住民生活に必要なバス等の旅客運送の確保、その他旅客の利便推進を図り、地域の実情に即した輸送サービスの実現に必要な事項及び地域公共交通総合連携計画を協議するため、「薩摩川内市地域公共交通活性化協議会」を設置した。

◆ 薩摩川内市地域公共交通総合連携計画の目標

少子・高齢化社会、人口減少時代に対応した利用しやすい公共交通サービスネットワークの構築を目標とする。

- (1) 地域内交通の確保
- (2) 地域内交通の充実
- (3) 公共交通の利便性の向上
- (4) 各地域を結ぶ広域的な運行
- (5) 多様な交通移動手段の検討



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 主な取り組み

● 株式会社まちづくり薩摩川内の設立

都市開発や土地・建物有効利用のコンサルティング業務、各種イベントの企画など中心市街地活性化に資する業務を実施することを目的に、平成20年4月30日に「株式会社まちづくり薩摩川内」を設立した。

【会社概要】

1	法人名	株式会社 まちづくり薩摩川内		
2	所在地	〒895-0024 鹿児島県薩摩川内市鳥追町15番3		
3	設立日	平成20年4月30日		
4	株式	226口 11,300千円 (薩摩川内市 3,000千円 26.5% 川内商工会議所 1,600千円 14.1% 中心市街地の振興組合・企業・個人 6,700千円 59.4%)		
5	役員	代表取締役 (非常勤) 山口 公彌 川内商工会議所副会頭 取締役 4人		
6	従業員	正社員 3名, 契約社員 1名, パート 17名 合計 21名		
7	沿革	平成20年 4月30日 株式会社まちづくり薩摩川内 創立総会 7月 1日 まちあいサロンのリニューアルオープン 10月 3日 まちのにぎわい館のオープン 平成21年 1月 1日 旧川内TMOの事業を継承		



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 主な取り組み

●(株)まちづくり薩摩川内における主な取り組み

1 空き店舗家賃補助事業

- 補助店舗：4件
- 補助金：4,598千円

2 まちあいサロン（平成20年7月1日）

- 営業時間10:00～19:00、定休日は年末年始のみ。
- 旧川内TMOが運営していた「街愛サロン」の名称を「まちあいサロン」とし、移転リニューアルオープン。
- 継続サービス 無料休憩場所、トイレ、お茶の無料提供、たのし～る会事務局、人権相談サービス場所（毎週土曜日）、健康相談（毎月第一水曜日）、無料パソコン
- 新規サービス 荷物一日お預かり、コーヒー等の有料提供、無線インターネットサービス



まちあいサロン

3 まちのにぎわい館（平成20年10月3日）

- 営業時間8:00～18:00、定休日は年末年始のみ。
- 空き店舗を活用し、特産品販売所とチャレンジショップを設置。
- 特産品販売所では市内で生産された農林水産物又は市内で製造された加工品のみを扱う。
（手数料は、10%（ただし、地区コミュニティ協議会が出品者の場合は8%））
- チャレンジショップは3区画（約1坪～3坪）あり、中心市街地での自立出店を目的に募集。
（使用料1区画5,000円・1年契約）
- 現在、2業者がパン、乾物をそれぞれ販売。

4 その他の事業

- ・ルンルン自転車管理事業、きやんせふるさと館事業、川内駅舎管理事業、肥薩おれんじ鉄道事業、横馬場駐車場管理事業、西口駐車場事業、



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 主な取り組み

●薩摩川内市中心市街地活性化基本計画の策定

平成19年度に薩摩川内市中心市街地基礎分析調査を行い、基本計画の作成に取り組むとともに、平成20年度から川内商工会議所が事務局となり「中心市街地活性化協議会」が開催され、「薩摩川内市中心市街地活性化基本計画」の認定に向けて取り組んでいる。

- ★平成19年度 薩摩川内市中心市街地基礎分析調査を実施し、基本計画を作成。
- ★平成20年度 中心市街地活性化協議会を開催

●中心市街地イベントを実施

中心市街地の活性化を図るため、川内商工会議所と地元商店街による「一店逸品運動」の取り組みへの支援を目的に、平成19年度から街なかイベントを実施。

【取り組み実績】

- | | |
|--------|---|
| 平成19年度 | 七ター店逸品まつり（7月）
一店逸品・ワンコインまつり（12月） |
| 平成20年度 | 一店逸品さつきまつり（5月）
一店逸品七夕市（8月）
一店逸品歳末市（12月） |



一店逸品七夕まつり



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 主な取り組み

● 雇用・経済対策の実施

世界的な経済不況による雇用不安に対応するため、平成20年12月に「雇用問題対策会議」を設置（平成21年1月30日付で地域雇用・経済対策会議に組織改編）し、併せて商工振興課内に離職者・地域経済支援総合相談窓口を設置した。

また、国の緊急経済対策による「緊急雇用創出事業臨時特例基金事業」の実施や、セーフティネット保証（緊急保証）制度申請のための事業者認定を実施した。

【主な取り組み内容】

1 対策会議の開催

○市内企業の雇用・経営状況等の情報収集や、国・県・関係機関等との連絡調整並びに、市独自の支援対策等の協議を行った。 会議回数：6回

2 相談窓口の設置

○相談件数 離職者関係：49件
中小企業融資関係：199件

3 地域経済対策

○中小企業対策利子補助の補助率の拡充（30%⇒100%）
○セーフティネット保証（緊急保証）制度申請のための事業者認定

4 緊急雇用創出事業特例基金事業の実施

○県からの補助で臨時職員雇用事業を実施
実施期間：平成21年1月13日～3月31日
雇用人数：14人



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 主な取り組み

● 『薩摩川内市観光振興基本構想』の策定（平成19年度策定）

○ 目的

薩摩川内の新しい観光イメージの創出により観光交流人口を拡大し、観光基盤の整備と観光関連産業の育成を図るとともに、本市を訪れる全ての人を「おもてなしの心」でお迎えする体制作りを進め、同時に、来訪者と市民が交流し、ともに楽しむことで、「住んでよく 訪れて楽しいまち 薩摩川内」を実現する。

○ 基本理念

観光の概念や枠組みを広く“地域との様々な人的交流”にとらえ、観光振興が本市にとって重要な取り組みであるという認識を地域や市民が共有し、地域ぐるみの推進体制により実現することを目指す。

○ 目標

- | | |
|----------------------|---------------------|
| ①市民参加の推進体制づくり | ②薩摩川内の観光イメージの創出 |
| ③交流人口拡大に向けた受け入れ体制の整備 | ④観光交流拠点間を結ぶ流れをつくる |
| ⑤各ゾーンの魅力を拡充する | ⑥観光関連産業の確立と産業間連携の強化 |

○ 対象地域

本市の都市交流ゾーン、田園交流ゾーン、海洋交流ゾーンの全ての地域を対象とする。

○ 期間

平成19年度から平成26年度の8か年

平成21年度から平成23年度までの3カ年を中期（発展期）とする。



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 主な取り組み

● 『市比野温泉地域活性化整備計画』の策定（平成20～21年度）

○ 目的

市比野温泉地域及びその周辺の活性化を図る整備計画を策定し、地域一体となった推進体制を確立するとともに、次年度以降、当初計画に基づき国・県・市の事業を活用した整備事業等を実施し、魅力ある地域づくりを促進し、交流人口の増大を図る。

○ 計画の特徴

市比野温泉地域活性化委員会が中心となり、4つの部会（環境部会、観光部会、スポーツ・イベント部会、食・文化部会）でワークショップを開催し、地域住民の考える整備計画書を策定した。

○ 基本目標

- ① 景観・雰囲気づくり
- ② おもてなしの心の育成
- ③ 地域ブランドの醸成・発信

○ 対象地域

市比野温泉地域



市比野温泉



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

◎ 主な取り組み

◎ 交流人口拡大のための観光基盤整備，誘客活動推進事業

● きやんせふるさとフェスタ事業

平成16年の九州新幹線部分開業，肥薩おれんじ鉄道開業記念として開催。

○場所：川内駅西口駅前広場，駅周辺及び商店街

○催物：郷土芸能，物産展，キャラクターショー，食まつり，タレントショー他

○観客数

- ①平成16年度：100千人
- ②平成17年度：55千人（両日雨天）
- ③平成18年度：100千人
- ④平成19年度：80千人
- ⑤平成20年度：65千人（初日雨天）



● 「薩摩川内えびそード100」作成業務

市内の歴史・食・人・自然・祭り・健康・芸能・癒しなどを網羅した，地域資源公募型観光ガイドブック「薩摩川内えびそード100」を作成する。

○一般公募，291件の中から100点厳選

○平成20年度：企画，取材，編集

● 甕島クルージング事業

川内駅・川内港から甕島へ観光遊覧船（12人乗り）をチャーターし，甕島を巡る「観光遊覧の旅」を実施。

○平成20年度実績

- ①実施回数：2回
- ②参加者数：19人





合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

◎ 主な取り組み

●観光アドバイザー招聘事業

大手旅行代理店から観光アドバイザーを招聘し、観光プログラムの構築や特産品の売り込み、観光従事者の指導及びアドバイスをを行い、観光客誘致を図る。

○業務内容

- ①薩摩川内市観光振興基本構想の実現に向けた支援
- ②地域資源を活かした観光商品の開発に関すること
- ③ツアーの企画や観光商品の宣伝に関すること
- ④観光振興に取り組む人材の育成及び団体の組織強化
- ⑤その他観光振興支援に関する業務

●市内旅行パック造成事業

各地域の観光素材を結んだ観光ルートを構築し、観光バスによる旅行商品を造成しツアーを実施。

○内容：バスツアーによる市内観光 「人形浄瑠璃観劇とフルーツ狩り」等

○参加状況

- ・平成19年度：340名
- ・平成20年度：322名

●セールスプロモーション活動

旅行エージェント、プレス等への観光客誘致セールス事業を実施。





合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

◎ 主な取り組み

● いむた池シャトルバス運行事業

藺牟田池を広くPRし、誘客を図るため、川内駅よりシャトルバスを運行。

○ 参加状況

- ①平成18年度：1,736名（観光協会委託事業）
- ②平成19年度：1,928名（　　　　　〃　　　　　）
- ③平成20年度：　414名（民間業者補助事業）



● ツーリズム推進活動事業

体験滞在型観光を促進するため、受入体制の整備やPR活動を実施。

○ グリーンツーリズム

グリーンツーリズム推進協議会を設立し、体験農家の登録等受入れ態勢づくりを行い、NPO団体等と協力連携しながら修学旅行生の体験学習受入等を実施。

- ①受入体験登録農家数：70軒（受入れ人数200人）H21.6現在
- ②修学旅行体験学習受入状況
平成20年度：1校（122名）平成21年度：4校予定（内1校119名H21.5受入済）

○ ブルーツーリズム

甌島体験プログラムの売り込み、受入れ態勢づくりを行い、体験ツアー客の受入れを推進する。

- ①体験プログラム作成・・・体験プログラム内容の精度向上のための確認作業実施
・体験メニュー24件（平成21年7月現在）
- ②体験プログラムのPR活動



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 主な取り組み

● 観光協会組織体制強化

○ 薩摩川内インフォメーションコーナー設置

川内駅改札前にインフォメーションコーナーを設置し、当市の観光情報等を効率的に発信し、観光振興を図る。

①案内時間：9：30～18：00 年中無休

○ 甑島観光案内所設置

甑島に市観光協会観光案内所を設置し、甑島全体の観光客への対応強化や体験プログラムの受入れを実施し、観光交流人口の増加を図る。

①案内時間：9：30～18：00

②休み：毎週火曜日・水曜日

○ 観光ガイド育成事業

市内全体の観光案内ができる観光ガイドの募集、先進地研修やガイド講習会等を実施。（観光ガイド45名）

①平成17年度：本土地域16名に委嘱状交付

②平成18年度：甑島地域10名に委嘱状交付

③平成19年度：委嘱者26名を対象に研修会、先進地研修実施

④平成20年度：育成講座を9回実施、新たに19名に委嘱状交付

自主的ボランティアガイド「いたっみろ会」が設立されている。



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

◎ 主な取り組み

＝ 観光施設の改修 ＝

観光施設の安全性・利便性を高めるため、改修等を行なった。

● 寺山いこいの広場整備事業

- 平成16年度：駐車場整備工事（造成工事）
- 平成17年度：駐車場整備工事（舗装・案内看板等工事）
- 平成18年度：遊具設置工事（レストハウス横）
- 平成19年度：遊具設置工事（運動広場）
- 平成20年度：遊具設置工事（運動広場）

● せんだい宇宙館整備事業

- 平成17年度：展示機器用パソコン・タッチモニター購入
- 平成18年度：プロジェクター購入
- 平成19年度：遊戯施設（無重力ショット）更新工事
- 平成20年度：展示ソフト新規製作業務委託

● いこいの村いむた池改修事業

- 平成16年度：プール改修工事，身障棟冷房機熱源機改修工事
- 平成17年度：発電機設備修繕工事，冷暖房ポンプモーター分解修繕工事
- 平成18年度：宿泊施設（瑞宝の間）改修工事，電気設備工事
- 平成19年度：テレビ幹線ケーブル補修工事
- 平成20年度：流水プールトイレ改修工事，ポンプ取替工事，エレベーター耐震改修工事

● 上甞県民自然レクリエーション村遊歩道整備事業

- 平成19年度：道路整備工事，法面工事
- 平成20年度：道路整備工事，法面工事



いこいの村いむた池



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 主な取り組み

【企業誘致推進事業】

● 工業団地整備

工業団地開発適地調査を実施し、工業団地整備方針を策定したほか、次の工業団地整備等を実施した。

西町用地整備事業 【約1.6ha・・・造成・売却，立地済】

西町2号用地整備事業【約2.0ha・・・造成済】

瀬ノ岡地区工業団地開発可能性調査事業【約3.0ha・・・調査検討】

● 企業訪問

県内外の企業を訪問し、ポートセールスと一体となった企業誘致活動を行った。また市内立地企業を訪問し、業況及び今後の見通し等について情報収集し、企業からの要望等について意見交換を行った。

● 立地企業研修会の開催

市内立地企業を対象に毎年立地企業研修会を開催し、かごしま産業支援センター，県工業技術センター，ハローワーク，ポリテクカレッジなど関係機関と連携し各種支援策等を紹介するとともに企業間交流，情報交換の場の提供を行った。

● 企業誘致方針の策定

平成19年度に企業誘致方針を策定し，企業訪問活動等に努めた。

● 企業誘致ポスター掲示

平成21年度において，本市の企業立地における優位点等をアピールすることを目的として，企業関係者の目に留まりやすい東京モノレールにポスターを掲示した。

● 立地企業の支援

本市進出企業に対し，立地協定を締結し，用地費取得費等についての助成措置を行った。



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

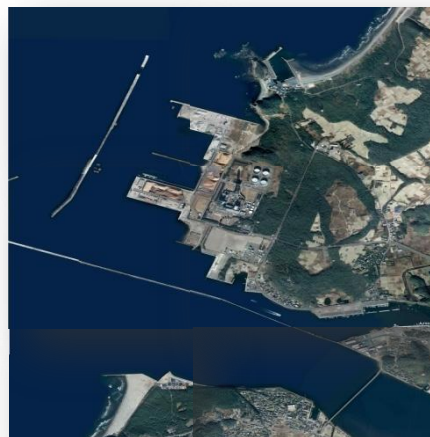
○ 主な取り組み

【川内港利活用推進事業】

- 重要港湾川内港の整備については、関係組織と共に要望活動を行い、リーファーコンセント、多目的クレーンが設置されるとともに、夜間照明の設置、路面舗装等の実施により港湾荷役作業の安全性が確保された。
- 平成16年4月開設した韓国との国際コンテナ定期航路の拡充については、企業誘致と一体となったポートセールス活動を行い、県内外でポートセミナーを毎年度実施すると共に、平成19年度からは川内港利活用推進員を配置し、ポートセールス活動を更に強化した。
- 韓国船会社に対しトップセールス事業を毎年度実施した結果、平成21年5月から国際コンテナ定期航路について川内港が国内初寄港地となった。

(コンテナ取扱量推移)

H16	1,663 TEU
H17	4,465 TEU
H18	7,833 TEU
H19	8,547 TEU
H20	7,871 TEU



ハーバークレーン

川内港



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 主な取り組み

【国際交流・組織体制等の充実】

- 国際交流協会の立ち上げ、会員増加策、市民団体に対する支援を行った。
- 市民の国際協力、国際感覚の醸成の支援のため、JETプログラムによる国際交流員を招致し、講座等を通じ異文化交流を促進し、国際感覚を身につけた人材の育成に努めた。 新鑿真

【国際交流協会会員状況】

・H17年度	団体83	個人443	・H18年度	団体76	個人511
・H19年度	団体72	個人562	・H20年度	団体69	個人500



【国際交流活動の振興】

- 中国や韓国等のアジア諸国との間において、経済交流をはじめ、芸術、文化・スポーツ、技術など様々な分野にわたり、市民、企業、地域など多様な主体による国際交流の展開を図った。
- 市町村合併により、平成17年4月、薩摩川内市と常熟市及び馬陸鎮との間に、改めて友好都市締結及び友好交流協議の調印を行った。
- 友好都市「常熟市」、「馬陸鎮」への訪問や日中友好の船「新鑿真」利用による中国との交流等の支援を行った。
- 市内中学生の「新鑿真」を利用した修学旅行を、平成18年度から平成20年度までの3年間実施した。
- 友好都市常熟市と毎年派遣・受入を行い、人的交流から経済交流に主軸を移しつつあり、経済交流の具現化のための協議・視察を行った。
- 川内商工会議所と常熟市工商业連合会との間で協議書の締結を行い、経済交流の推進を図った。
- 韓国昌寧郡と親書を取り交わし、友好交流調査団を平成21年8月に派遣し、今後の交流のあり方を検討するための視察等を行った。

【新鑿真乗船者状況】

・H17年度	2回実施	231名	・H18年度	2回実施	248名
・H19年度	2回実施	257名	・H20年度	2回実施	166名
・H21年度	1回実施	100名			



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 主な取り組み

【外国人受入態勢の整備】

- 外国人留学生やホームステイ研修生等の受入を促進するため、通訳やホームステイ先のボランティア登録、国際交流センターにおける外国人への生活相談サービスの充実等を図った。
- 外国語を併記した観光案内パンフレットを作成し、国際交流センターや市内各箇所に設置した。
- 市役所の案内窓口等において外国語の併記等を行った。
- 国際交流協会の自主事業として、語学に不安のある外国人を対象とした日本語講座を実施した。

【工業用水】

- 既得の工業用水水利権について、更新申請手続きを行い許可を受けた。

【甑島航路事業】

- 甑島航路検討業務調査
平成18年度に、川内港と甑島各港との航路開設のために、「甑島航路検討業務調査委託」を実施した。
- 甑島航路研究会
平成19年度に、甑島の各地区コミュニティ協議会会長等と、甑島航路についての研究会を実施した。
- 甑島市民等との意見交換会
平成19年度から、甑島市民等と、川内港と甑島各港との航路開設についての意見交換会を開催した。



現状と課題



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○現状と課題

●コミュニティバスの運行見直し

現在運行しているコミュニティバスのより効率的かつ利便性の高い運行形態を構築するために、新たな公共交通システム（デマンド交通）の導入を検討する必要がある。

【参考】

本土の各支所地域で運行しているコミュニティバスの利用状況(人)			
区 分	平成18年度	平成19年度	平成20年度
ゆうゆうバス(樋脇地域)	19,286	19,568	17,735
ゆったりバス(東郷地域)	15,451	13,510	10,736
入来乗合タクシー(入来地域)	6,867	6,777	7,148
祁答院バス(祁答院地域)	9,015	7,113	7,145
計	50,619	46,968	42,764

(補足説明)

川内地域のコミュニティバス利用人数はほぼ横ばいであるのに対し、各支所地域のコミュニティバスは利用者が減少してきている。しかしながら、高齢化の進行等によりバスの運行への要望は高く、そのため現行の運行形態を見直し、デマンド交通（予約制乗合タクシー）の導入を検討する必要がある。



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○現状と課題

●公共交通活性化・再生総合事業の実施

地域公共交通活性化協議会で協議した地域公共交通総合連携計画に登載している事業について、「公共交通活性化・再生総合事業」を活用し、事業の実施及び計画を行なっている。

■公共交通活性化・再生総合事業を活用する事業

①北部循環バスの実証運行

平成19年12月から川内北部地域において循環バス実証運行を行なっている。

②レトロ調ボンネットバスの導入

観光客等市外からの誘客で地域活性化を図るため、レトロ調ボンネットバスを北部循環バスに導入運行する。（平成21年度）

③大循環バスの新規実証運行

中心市街地（川内駅）と各支所地域を結ぶ大循環バスの実証運行を行なう。（平成22年度以降）

④デマンド交通の導入

新たな交通体系として、デマンド交通の導入を行なう。（平成22年度以降）

⑤公共交通マップの作成

公共交通に関する情報提供を行なうため、マップを作成する。

⑥川内駅バス待合所設置

川内駅における交通結節点としての機能充実とバス利用者の利便性を図るため川内駅西口にバス待合所を設置する。（平成22年度）



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 現状と課題

● 中心市街地活性化施策の取り組み

「薩摩川内市中心市街地活性化基本計画」に基づき、中心市街地で各種事業に積極的に取り組んでいる。

今後、(株)まちづくり薩摩川内を中心にテナントミックス調査事業を行い、中心市街地に不足する業種などを明確にすることで、空き店舗対策をからめた商業集積を図りたい。

また、一店逸品運動を継続し、中心市街地の活性化を図る必要がある。



● 雇用・経済対策の充実

安定的な雇用を図るため中小企業事業者への金融対策で景気の下支えを行っているが、ハローワーク川内管内の有効求人倍率は、平成21年4月が0.27倍と低迷している。

業種別では輸出関連産業や運輸産業が低迷し、医療・介護産業が伸びてきていることから、今後も情報収集を行い国の経済対策事業等を活用し、新規雇用を図る必要がある。



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 現状と課題

● 『薩摩川内市観光振興基本構想』への取組

当構想は、平成19年3月に策定したが、平成23年春の九州新幹線全線開通へ向け、登載事業の早期実施・拡充が必要である。

● 『市比野温泉地域活性化整備計画』の策定

整備計画書に基づき、具体的事業化を図る必要がある。

◎ 交流人口拡大のための観光基盤整備、誘客活動推進事業

● きゃんせふるさとフェスタ事業

市外からの誘客を期待できる内容の検討、「九州新幹線全線開業」へ向けて市民一体となった協力体制づくり。

● 地域資源公募型観光ガイドブック「薩摩川内えびそード100」作成業務

編集委員会を開催し、内容を調整している。活用方法を十分に検討する必要がある。

● 甕島クルージング事業

甕島クルージング事業は、1年間、市が事業実施主体となって取り組んできている。今後、民間団体等での自主運営として取り組むためにはハード・ソフト両面の充実が課題となる。

● 観光アドバイザー招聘事業

現在、観光振興については、各地域の観光名所のPR不足や観光振興に取り組む人材の不足が課題となっている。



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 現状と課題

●市内旅行パック造成事業

多くのリピーターを獲得し、好評を得ている。民間事業者の商品造成の促進、採算性の向上、広域的な連携が課題。

●セールスプロモーション活動

九州新幹線全線開業後の観光誘客促進を図るための情報発信がまだまだ不十分であり、セールス活動の充実が課題である。

●いむた池シャトルバス運行事業

民間事業者へ委託して実施している。活用法を検討し、民間事業者の自主運行をめざす。

●ツーリズム推進活動事業

○グリーン・ツーリズム

- ・修学旅行体験学習受入のための農家等の確保が課題である。
- ・農家民宿に関する支援方策の研究及び情報提供が課題である。

○ブルー・ツーリズム

- ・旅行エージェントへの売り込みには、甑島体験プログラムの内容の再点検が課題である。
- ・甑島体験プログラム受入者との意思疎通や情報収集・提供など受入者の組織づくり及び旅行エージェントや観光客の問い合わせ等に対応する市観光協会甑島案内所の窓口化が課題である。

●観光協会組織体制強化

観光協会については、会員減少などによる財源不足が課題となっている。



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

◎ 現状と課題

● 観光施設の改修

施設の老朽化が進んでいく中、計画的な更新・修繕を行っているが、年度途中の突発的修繕に対する対応や類似施設の統廃合などが今後の課題となっている。



甌島館



とうごう五色親水公園



竜宮の郷



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 現状と課題

【企業誘致推進事業】

● 支援策等の周知

立地企業に対する支援策等については、周知に努めているが、他自治体との競争であることから、更なる有効な手法の検討が必要である。

● 受け皿としての工業団地の整備

近年の企業立地の動向はインフラ整備がなされていることが前提条件であるが、幅広い立地希望に答えられる工業団地を有していないことから、立地に至らないのが現状である。

【川内港利活用推進事業】

● 重要港湾川内港については、日韓定期コンテナ航路を平成16年に開設以来、コンテナ取扱数の増加に伴うコンテナヤードの拡張、リーファーコンセント（冷凍冷蔵コンテナ用コンセント）の不足及び台風対策等の課題が生じている。

● 定期航路の拡充については、既存航路（韓国釜山定期航路）の週2便化や中国、香港等からの直航便による利便性向上を図る必要がある。

● 検疫港指定要件を満たさなかったため、現在は無線検疫港に指定されているが、平成21年5月の韓国船会社のスケジュール変更に伴い、検疫港指定要件を満たす見込であり、川内港のC I Q（税関・出入国管理・検疫）機能を確認させるため、引き続き国への要望を行う必要がある。

● 川内港の港湾計画は、平成元年策定のまま見直しがなされていない状況であり、早急に県と協議し見直しを図る必要がある。



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 現状と課題

【国際交流・組織体制等の充実】

- 国際交流を行う市民団体へ条件を附して補助金を交付しているが、諸条件が現状に合っているかが課題になっている。
- 国際交流協会の組織発展を図る必要があるが、国際交流の意義が十分に浸透していないことから、魅力あるものにしていくことが課題となっている。
- 毎年、JETプログラムで中国から国際交流員を招致し、主に語学講座や学校・地域への派遣等を実施しながら市民の国際感覚の醸成を図っているが、市民への浸透が不足している。
- 中国のほか、韓国との交流活動が活発になっていくと考えるが、推進するにあたっての取り組み体制の整備（通訳・翻訳者の確保等）が課題となっている。

【国際交流活動の振興】

- 貨客船「新鑿真」による中国旅行の集客状況が年々厳しくなっている。市内中学生の修学旅行実施についても、海外渡航に対する学校、保護者全員の理解が必要であり、国内に比べ、様々な制約がかかってくることで継続的な実施が困難である。
- 第1回目となる鹿児島純心女子大学の留学生と地域住民等との交流が実現したところであり、今後その継続と拡大が課題となっている。

【外国人受入態勢の整備】

- 日本語講座等のPRを行っているが、なかなか周知されないことが課題となっている。
- ホテル等での外国人向けパンフレット設置、市内情報案内等の整備の検討が課題となっている。



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

〇 現状と課題

【工業用水】

- 本市の工業用水における水利使用許可については、平成10年4月に船間島工業団地において、工業用水の供給が望まれていたことから許可を取得した。しかしながら、工業用水については、社会経済の低迷等により、企業の設備投資の見込みが立たず、浄水施設等の施設整備がなされていない状況である。
- 既得水利権の許可期限が平成24年3月末であるが、これまで取水実績がないことから更新許可手続きが困難を極めると考えられる。

【甌島航路事業】

- 本市構想（高速船は川内港・甌島間、フェリーは当面串木野新港・甌島間）については、甌島市民との意見交換会、チラシ配布により大半の甌島市民の理解は得られている状況であるが、本市構想の実現のためには、川内港発着となっても引き続き国庫補助航路として位置付けられることが課題となっている。
- 国土交通省は、H21年度で「離島航路補助制度」の見直しを行うこととしており、その結果を踏まえて、施策実現のための手法の研究が必要である。
- 川内港には、浮棧橋や燃料補給施設が無いいため、高速船発着のための浮棧橋等の施設整備が課題となっている。



今後の主な取組について



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 今後の主な取組について

公共交通システムの見直しと充実

● 新たな交通システム（デマンド交通）の導入

平成22年度から実証運行を行い、その内容を検証しながら随時デマンド交通の導入を行い、より効率的なバス運行に取り組みたい。

● コミュニティバス路線の新たな開設と既存路線の見直し

本土各支所地域と、中心市街地・川内駅を結ぶ大循環バスの運行を行うとともに、現在運行しているコミュニティバスの路線の見直しを行う。

● 甌島における新たな公共交通システムの構築

現在甌島で行っている自動車運送事業の経営改善と、甌島におけるバス利用者の利便性向上を図るために、新たな公共交通体系構築に関する調査を実施し、民営化も含めた今後の公共交通のあり方を決定し、効率的なバス運行を目指す。



● 地域公共交通活性化協議会における地域公共サービスの見直し

今後、コミュニティバスをはじめとする地域公共交通サービスのあり方について、協議会での意見を踏まえながら見直しを進める必要がある。



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 今後の主な取組について

● 魅力ある商店街の育成

テナントミックス調査事業の調査報告を基に、魅力ある商店街作りに取り組む。
また、自主事業や収益事業を積極的に行うことで財務体質の強化を図る。

● 「中心市街地活性化基本計画」に基づく事業の推進

「薩摩川内市中心市街地活性化基本計画」に登載している、

- ①市街地の整備
- ②交通アクセス
- ③街なか居住
- ④公益施設
- ⑤商業・業務

の5つの活性化の施策を積極的に推進していく。



● 新たな雇用創出への取り組み

国の経済対策を活用した雇用対策事業を継続して実施することで、新たな雇用創出に取り組む。



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 今後の主な取組について

● 『薩摩川内市観光振興基本構想』に基づく事業の具体化

当基本構想を基に、「住んでよく、訪れて楽しいまち 薩摩川内」を実現するため、ゾーンごとの地域特性を生かした観光交流ゾーンの形成を図るため、基本計画、事業の具体化について重点的に取組む。

蘭牟田池



長目の浜



● 『市比野温泉地域活性化整備計画』の具体化

- ・整備計画書に基づき国・県・市の事業を活用した整備事業について重点的に取り組む。
- ・県事業等の採択に向けて、要望等を実施する。
- ・民間事業者が主体となる事業については、その円滑な実施へ向け支援を行う。



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 今後の主な取組について

◎ 交流人口拡大のための観光基盤整備，誘客活動推進事業の実施

● きゃんせふるさとフェスタ事業

市民一体となった「新幹線全線開業」歓迎の機運の醸成
市外からの誘客促進につながる企画の検討

● 地域資源公募型観光ガイドブック「薩摩川内えびそーど100」作成業務

頒布先や販売方法など検討課題

● 甌島クルージング事業

甌島クルージング事業は民間団体等での自主運営として促進していく。

利用客の安全面等を考慮し，川内港に浮き桟橋を設置するハード面，九州新幹線全線開業後の川内駅から川内港への二次アクセス確保等のソフト面について重点的に取組む。

● 観光アドバイザー招聘事業

商品造成と販売ルートの開発や観光振興に取り組む人材の育成・団体の組織強化について重点的に取り組む。

● 市内旅行パック造成事業

民間事業者による自主的な運行の促進、広域的な連携への支援

● セールスプロモーション活動

九州新幹線全線開業後の観光誘客促進を図るため，シティーセールスとの連携を図りながら，パンフレット等を充実させセールス活動について重点的に取組む。



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 今後の主な取組について

● いむた池シャトルバス運行事業

PR方法、食事や宿泊・JRなどをセットにした販売、運行期間などを検討し、自主運行をめざす。

● ツーリズム推進活動事業

○ グリーン・ツーリズム

・ 修学旅行体験学習の受入実施に重点的に取り組むとともに、農家民宿に関する支援方策の研究情報提供に努める。

○ ブルー・ツーリズム

・ 甌島体験プログラムのメニュー再点検や新たなプログラム開発に取り組むとともに、旅行エージェント等への積極的なセールスについて、重点的に取り組む。
・ 受入者の組織づくり及び市観光協会甌島案内所の窓口化について、重点的に取り組む。

● 観光協会組織体制強化

組織強化や法人化について重点的に取り組む。

● 観光施設の改修

利用者に満足いただけるよう計画的な改修について重点的に取り組む。



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 今後の主な取組について

【企業誘致推進事業】

● 支援策等の充実とセールス活動

立地企業に対する支援策等については、支援メニューの充実を図ると共に、本市の優位性について、ポートセールス、シティーセールスと一体となった更なる誘致活動を行う。

● 企業誘致方針の改定と工業団地の整備

企業誘致方針については、新エネルギー産業等今後の成長産業も対象とし、新たな方針に基づく企業誘致活動を推進する。また、鹿児島県などと協調した工業団地整備に取り組む。

● 起業支援と農商工連携

(財)かごしま産業支援センター等起業家支援を実施している関係機関の支援策の紹介を積極的に行う。また、本市の優良な資源を活かした新たな事業への取組に対する支援を行う。

● 地場企業の支援

既存企業が活用できる国・県等の各種支援策の紹介を行うと共に、既存企業が新設・増設することで受けられる支援策（固定資産税の課税免除等）を行う。

● 産学官連携の推進

市内立地企業を対象に毎年立地企業研修会を開催し、かごしま産業支援センター、県工業技術センター、ハローワーク、ポリテクカレッジなど関係機関と連携し各種支援策等を紹介するとともに企業間交流、情報交換の場の提供を行う。



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 今後の主な取組について

【川内港利活用推進事業】

- 「薩摩川内港」の知名度を高めるため、企業誘致活動、シティーセールス活動と連携した有効的なポートセールス活動、ポートセミナーの実施に取り組む。
- 韓国釜山港との週2便化、又は中国直航航路等の誘致を行うには、1万本のコンテナ取扱いが最低条件であり、新たな輸出品目の掘り起こしを行う。
- 検疫港指定及び川内港港湾計画改訂に向けた関係機関への働きかけを行う。
- 川内港背後地については、外貿・内貿航路と連携した工業団地・流通団地の造成について検討を行う。





合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 今後の主な取組について

【国際交流・組織体制等の充実】

- 中国，韓国だけにとどまらず，グローバルな視野での国際交流を展開する。
- ボランティアガイド・通訳等，協会を中心とした草の根レベルの活動が展開されるような体制整備に努める。

【国際交流活動の振興】

- 国際交流活動の一環として，鹿児島純心女子大学の留学生をはじめとする市内在住外国人と地域住民等との交流を促進する。
- 貨客船「新鑿真」事業の継続を図るとともに，内容の改善について重点的に取り組む。
- 韓国昌寧郡と，友好都市締結を視野に入れた文化交流等を進める。
- 常熟市との経済交流を促進し，経済的互惠関係を構築する。

【外国人受入態勢の整備】

- 関係団体等と連携しながら，外国人の現状把握に努める。
- 市内に居住する外国人が生活しやすい環境整備を図るため，外国語訳を併記するなどの工夫を施しながら市のホームページや広報紙等を媒体とした広報活動を推進する。



合併後5年間のまちづくり【商工観光部】

○ 今後の主な取組について

【工業用水】

- 川内港背後地における工業団地整備の検討を行い、水利権の有効活用とともに積極的に企業誘致に取り組む必要がある。

【甌島航路事業】

- 「離島航路補助制度」の見直し結果を踏まえて、運航事業者及び関係自治体等と、今後の施策実現を目指して協議を進める。



代表的取り組み事例



【参考】コミュニティバスの運行

新たなコミュニティバスの運行

交通空白地域の解消と、市民生活の利便性向上を図るために、新たにコミュニティバスを導入した。

- 平成18年11月8日 運行開始
南部循環バス（南部循環，高江・土川，串木野新港線）
- 平成19年12月1日 運行開始
北部循環バス（湯田・西方，城上・吉川線）



北部循環バス

□利用実績 (人)	平成18年度	平成19年度	平成20年度
南部循環線	23,429	64,555	67,653
北部循環線	—	22,295	71,053

●薩摩川内市地域公共交通活性化協議会を設置

平成20年3月，住民生活に必要なバス等の旅客運送の確保，その他旅客の利便推進を図り，地域の実情に即した輸送サービスの実現に必要な事項及び地域公共交通総合連携計画を協議するため，「薩摩川内市地域公共交通活性化協議会」を設置した。



【参考】中心市街地の活性化

中心市街地活性化を図るため、㈱まちづくり薩摩川内を設立

都市開発や土地・建物有効利用のコンサルティング業務、各種イベントの企画など中心市街地活性化に資する業務を実施することを目的に、平成20年4月30日に「株式会社まちづくり薩摩川内」を設立した。

●㈱まちづくり薩摩川内における主な取り組み

- 1 空き店舗家賃補助事業
- 2 まちあいサロン（平成20年7月1日開設）
- 3 まちのにぎわい館（平成20年10月3日オープン）
- 4 その他の事業
 - ・ルンルン自転車管理事業、きやんせふるさと館事業、川内駅舎管理事業 ほか



まちのにぎわい館

薩摩川内市中心市街地活性化基本計画の策定

平成19年度に薩摩川内市中心市街地基礎分析調査を行い、基本計画の作成に取り組むとともに、平成20年度から川内商工会議所が事務局となり「中心市街地活性化協議会」が開催され、「薩摩川内市中心市街地活性化基本計画」の認定に向けて取り組んでいる。

- ★平成19年度 薩摩川内市中心市街地基礎分析調査を実施し、基本計画を作成。
- ★平成20年度 中心市街地活性化協議会を開催

中心市街地イベントを実施

中心市街地の活性化を図るため、川内商工会議所と地元商店街による「一店逸品運動」の取り組みへの支援を目的に、平成19年度から街なかイベントを実施。



一店逸品七夕まつり



【参考】雇用・経済対策の実施

●雇用・経済対策の実施

世界的な経済不況による雇用不安に対応するため、平成20年12月に「雇用問題対策会議」を設置（平成21年1月30日付で地域雇用・経済対策会議に組織改編）し、併せて商工振興課内に離職者・地域経済支援総合相談窓口を設置した。

また、国の緊急経済対策による「緊急雇用創出事業臨時特例基金事業」の実施や、セーフティネット保証（緊急保証）制度申請のための事業者認定を実施した。

【主な取り組み内容】

1 対策会議の開催

○市内企業の雇用・経営状況等の情報収集や、国・県・関係機関等との連絡調整並びに、市独自の支援対策等の協議を行った。 会議回数：6回

2 相談窓口の設置

○相談件数 離職者関係：49件
中小企業融資関係：199件

3 地域経済対策

○中小企業対策利子補助の補助率の拡充（30%⇒100%）
○セーフティネット保証（緊急保証）制度申請のための事業者認定

4 緊急雇用創出事業特例基金事業の実施

○県からの補助で臨時職員雇用事業を実施
実施期間：平成21年1月13日～3月31日
雇用人数：14人



【参考】観光振興基本構想・整備計画の策定

●『薩摩川内市観光振興基本構想』の策定（平成19年度策定）

○目的

薩摩川内の新しい観光イメージの創出により観光交流人口を拡大し、観光基盤の整備と観光関連産業の育成を図るとともに、本市を訪れる全ての人を「おもてなしの心」でお迎えする体制作りを進め、同時に、来訪者と市民が交流し、ともに楽しむことで、「住んでよく、訪れて楽しいまち 薩摩川内」を実現する。

○目標

- | | |
|----------------------|---------------------|
| ①市民参加の推進体制づくり | ②薩摩川内の観光イメージの創出 |
| ③交流人口拡大に向けた受け入れ体制の整備 | ④観光交流拠点間を結ぶ流れをつくる |
| ⑤各ゾーンの魅力を拡充する | ⑥観光関連産業の確立と産業間連携の強化 |

●『市比野温泉地域活性化整備計画』の策定（平成20～21年度）

○目的

市比野温泉地域及びその周辺の活性化を図る整備計画を策定し、地域一体となった推進体制を確立するとともに、次年度以降、当初計画に基づき国・県・市の事業を活用した整備事業等を実施し、魅力ある地域づくりを促進し、交流人口の増大を図る。

○基本目標

- ①景観・雰囲気づくり
- ②おもてなしの心の育成
- ③地域ブランドの醸成・発信

○対象地域

市比野温泉地域





【参考】観光基盤整備，誘客活動推進事業の実施①

●きやんせふるさとフェスタ事業

平成16年の九州新幹線部分開業，肥薩おれんじ鉄道開業記念として開催。以後毎年3月に開催。
場所：川内駅西口駅前広場，駅周辺及び商店街

●「薩摩川内えびそード100」作成業務

市内の歴史・食・人・自然・祭り・健康・芸能・癒しなどを網羅した，地域資源公募型観光ガイドブック「薩摩川内えびそード100」を作成する。

●甌島クルージング事業

川内駅・川内港から甌島へ観光遊覧船（12人乗り）をチャーターし，甌島を巡る「観光遊覧の旅」を実施。

●観光アドバイザー招聘事業

大手旅行代理店から観光アドバイザーを招聘し，観光プログラムの構築や特産品の売り込み，観光従事者の指導及びアドバイスを行い，観光客誘致を図る。

●市内旅行パック造成事業

各地域の観光素材を結んだ観光ルートを構築し，観光バスによる旅行商品を造成しツアーを実施。

●セールスプロモーション活動

旅行エージェント，プレス等への観光客誘致セールス事業を実施。

●いむた池シャトルバス運行事業

蘭牟田池を広くPRし，誘客を図るため，川内駅よりシャトルバスを運行。



【参考】観光基盤整備，誘客活動推進事業の実施②



● ツーリズム推進活動事業

体験滞在型観光を促進するため，受入体制の整備やPR活動を実施。

○ グリーンツーリズム

グリーンツーリズム推進協議会を設立し，体験農家の登録等受入れ態勢づくりを行い，NPO団体等と協力連携しながら修学旅行生の体験学習受入等を実施。

○ ブルーツーリズム

甌島体験プログラムの売り込み，受入れ態勢づくりを行い，体験ツアー客の受入れを推進する。

● 観光協会組織体制強化

○ 薩摩川内インフォメーションコーナー設置

川内駅改札前にインフォメーションコーナーを設置し，当市の観光情報等を効率的に発信し，観光振興を図る。

○ 観光ガイド育成事業

市内全体の観光案内ができる観光ガイドの募集，先進地研修やガイド講習会等を実施。（観光ガイド45名）

＝ 観光施設の改修 ＝

観光施設の安全性・利便性を高めるため，改修等を行なった。

● 寺山いこいの広場整備事業

● いこいの村いむた池改修事業

● せんだい宇宙館整備事業

● 上甌県民自然レクリエーション村遊歩道整備事業



【参考】企業誘致推進事業

●工業団地整備

工業団地開発適地調査を実施し、工業団地整備方針を策定したほか、次の工業団地整備等を実施した。

西町用地整備事業 【約1.6ha・・・造成・売却，立地済】

西町2号用地整備事業【約2.0ha・・・造成済】

瀬ノ岡地区工業団地開発可能性調査事業【約3.0ha・・・調査検討】

●企業訪問

県内外の企業を訪問し、ポートセールスと一体となった企業誘致活動を行った。また市内立地企業を訪問し、業況及び今後の見通し等について情報収集し、企業からの要望等について意見交換を行った。

●立地企業研修会の開催

市内立地企業を対象に毎年立地企業研修会を開催し、かごしま産業支援センター、県工業技術センター、ハローワーク、ポリテクカレッジなど関係機関と連携し各種支援策等を紹介するとともに企業間交流、情報交換の場の提供を行った。

●企業誘致方針の策定

平成19年度に企業誘致方針を策定し、企業訪問活動等に努めた。

●企業誘致ポスター掲示

平成21年度において、本市の企業立地における優位点等をアピールすることを目的として、企業関係者の目に留まりやすい東京モノレールにポスターを掲示した。

●立地企業の支援

本市進出企業に対し、立地協定を締結し、用地費取得費等についての助成措置を行った。



【参考】川内港利活用推進事業

- 重要港湾川内港の整備については、関係組織と共に要望活動を行い、リーファーコンセント、多目的クレーンが設置されるとともに、夜間照明の設置、路面舗装等の実施により港湾荷役作業の安全性が確保された。
- 平成16年4月開設した韓国との国際コンテナ定期航路の拡充については、企業誘致と一体となったポートセールス活動を行い、県内外でポートセミナーを毎年度実施すると共に、平成19年度からは川内港利活用推進員を配置し、ポートセールス活動を更に強化した。
- 韓国船会社に対しトップセールス事業を毎年度実施した結果、平成21年5月から国際コンテナ定期航路について川内港が国内初寄港地となった。

(コンテナ取扱量推移)

H16	1,663 TEU
H17	4,465 TEU
H18	7,833 TEU
H19	8,547 TEU
H20	7,871 TEU





【参考】国際交流推進事業

【国際交流・組織体制等の充実】

- 国際交流協会の立ち上げ，会員増加策，市民団体に対する支援を行った。
- 市民の国際協力，国際感覚の醸成の支援のため，JETプログラムによる国際交流員を招致し，講座等を通じ異文化交流を促進し，国際感覚を身につけた人材の育成に努めた。

【国際交流協会会員状況】

・H17年度	団体83	個人443	・H18年度	団体76	個人511
・H19年度	団体72	個人562	・H20年度	団体69	個人500

【国際交流活動の振興】

- 中国や韓国等のアジア諸国との間において，経済交流をはじめ，芸術，文化・スポーツ，技術など様々な分野にわたり，市民，企業，地域など多様な主体による国際交流の展開を図った。
- 市町村合併により，平成17年4月，薩摩川内市と常熟市及び馬陸鎮との間に，改めて友好都市締結及び友好交流協議の調印を行った。
- 友好都市「常熟市」，「馬陸鎮」への訪問や日中友好の船「新鑿真」利用による中国との交流等の支援を行った。
- 市内中学生の「新鑿真」を利用した修学旅行を，平成18年度から平成20年度までの3年間実施した。
- 友好都市常熟市と毎年派遣・受入を行い，人的交流から経済交流に主軸を移しつつあり，経済交流の具現化のための協議・視察を行った。
- 川内商工会議所と常熟市工業商業連合会との間で協議書の締結を行い，経済交流の推進を図った。
- 韓国昌寧郡と親書を取り交わし，友好交流調査団を平成21年8月に派遣し，今後の交流のあり方を検討するための視察等を行った。

【新鑿真乗船者状況】

・H17年度	2回実施	231名	・H18年度	2回実施	248名
・H19年度	2回実施	257名	・H20年度	2回実施	166名
・H21年度	1回実施	100名			



【参考】 甌島航路事業

【甌島航路事業】

● 甌島航路検討業務調査

平成18年度に、川内港と甌島各港との航路開設のために、「甌島航路検討業務調査委託」を実施した。

● 甌島航路研究会

平成19年度に、甌島の各地区コミュニティ協議会会長等と、甌島航路についての研究会を実施した。

● 甌島市民等との意見交換会

平成19年度から、甌島市民等と、川内港と甌島各港との航路開設についての意見交換会を開催した。

